

台湾及びその離島における陸産貝類相について (I)

東 良 雄*

Land Molluscan Fauna of Taiwan (Formosa) and adjacent islands (I)

Yoshio AZUMA

はじめに

台湾はちょうど九州を一回り小さくしたぐらいの島である。そのほぼ中央、嘉義付近を北回歸線が通る亜熱帯の島である。西岸は台湾海峡を経て中国大陸と向きあう。一方、東岸は太平洋に面し、この東岸の沖を黒潮が北上している。この島の生物相は黒潮の流れとの関係から、日本特に南西諸島とのつながりが論じられてきた。陸産貝類の分布からみた場合も、密接な関係をもつ島である。このたび兵庫県生物学会第二次台湾研修旅行に参加して、この一端を観察することができたのでここに報告したい。なお、本研修旅行中、いろいろお世話になった同行の諸氏に対し感謝の意を表する。

台湾の陸産貝類

旅行コースについては『神戸の植物』(第16号)台湾特集号 p.199, 台湾研修旅行行程概念図を参照されたい。台湾をはじめ澎湖島、蘭嶼にも立ち寄ることができなかなかバラエティーに富む旅行となった。主な採集地は澎湖島、蘭嶼及び台湾各地(屏東三地門, 知本, 大武, 墾丁, 佳楽水, 本部溪)である。今回の旅行で採集できた陸産貝類は約40種(亜種を含む)であった。その目録は次号(台湾特集号)に掲載する。本報告では各地で見た陸貝について述べることにする。

(1) 澎湖島 (24,25. Jul.1989)

台湾の南西海上に浮かぶ大小64の島からなる。今回はそのうち、澎湖島・白沙島・漁翁島を訪れた。どの島も平坦で最高点が50m前後である。これらの島では *Eulota tourannensis* タママイマイ (図1) と *Achatina (Lissachatina) fulica* アフリカマイマイのみ採集できた。両種とも上記三島にごく普通にみられた。特に西台古堡(漁翁島)では多くみかけた。それ以外の種についてはみかけなかったが、本島の植物相が貧弱であることを考えるとあまり多くの種は分布していないと思われる。

(2) 蘭嶼 (28,29. Jul.1989)

この島は台湾(台東)から南東方向に約76kmのところにあるが、深度1000mの海溝で隔てられた火山島である。地質学的要因からみると、フィリピン北部にあるバタン

諸島、バブヤン諸島(共に火山島)と類似している。また、黒潮等の影響を受けるためこれらの島嶼と関連の深い生物が分布している。生物地理学上有名なウォーレス線(東洋区とオーストラリア区の境界線)を改定した新ウォーレス線が蘭嶼と台湾の間を横切っている。このことはこの線を越えて台湾に分布していない生物がかなりあること(又はその逆現象)を示すものである。陸貝の分布においてもいくつかの種についてこの事実が認められる。

このような分布を示す陸貝の一つに *Helicostyla (Opalliostylia) okadai* オカダミガキマイマイ (図2 A・B) がある。この属の貝はフィリピンでよく分化しているようで、約18種も分布している。*Helicostyla* 属の貝は美しい殻を有する樹上性の貝である。オカダミガキマイマイの殻は卵形の円錐状であり、その表面は淡い緑色を帯びた白色の美しい貝である。軟体はごくうすい褐色から白色である。現在のところ蘭嶼と緑島のみ分布している。

次に、この島の旧名紅頭嶼の名のついた *Pancala batanica boteltobagoensis* コウトウシヨウマイマイ (図3) という色帯を有する小型の美しい左巻きの貝がいた。この貝と近縁の種 *P. batanica pancala* パンカラマイマイ (図4) が台湾南端付近に分布している。今回の旅行でも墾丁、佳楽水でみられた。これらの貝の模式種 *P. batanica* がバタン諸島に分布しており、やはりフィリピン方面と関連のある貝といえるであろう。

一方、比較的大型で重厚な殻をもつ *Nesiohelix kanoi* カノマイマイ (図5 A・B) は蘭嶼のみに分布している。この *Nesiohelix* 属の貝は、蘭嶼、台湾北部、尖閣列島、南北大東島、沖永良部島、中国大陸南部及び朝鮮半島に現生種が分布している。化石種が沖縄の多良間島、宮古島、南大東島、与論島(投稿準備中)から発見されている。この属の貝は日本に広く分布する *Euhadra* マイマイ属の先祖型といわれている種類であるが、特異な分布をする陸貝である。カノマイマイの殻は堅固で低平な円錐形。殻表面には、不規則ながら成長脈に平行な顆粒状の列を有する。色帯は図5 Bでは濃い赤褐色で1・2・3・4型であるが、これ以外に、黒褐色の単色のものや淡赤褐色の単色のものなどもみられる。貝殻の形態から

* 県立川西緑台高等学校

は台湾北部に分布する *N. swinhoei* スインホウマイマイより日本産の種 (例えば *N. irrediviva* エラブマイマイ) に類似している。軟体は淡褐色から褐色である。*E. tourannensis* タママイマイは蘭嶼にも分布していた。

少し形態の異なった貝として *Pythia* ヒラシノミガイ属 3 種を見つけた (図 6)。この属の貝はインドと太平洋諸島に広く分布している。*P. pantherina* マダラヒラシノミガイは沖縄, 台湾, スリランカ島, 東インド諸島, フィリピン, ジャワ, スマトラ, カリマンタン, スラウェシ, ニューギニアなどに分布。*P. pachyodon* クロヒラシノミガイは奄美, 沖縄, 台湾などに分布。*P. nana* ヒメヒラシノミガイは太平洋に分布。

(3) 台湾 (26.27.Jul.1989, 30.Jul.~2.Aug.1989)

(イ) 三地門 (26.Jul.1989)

ヒラコウラベッコウガイ *Parmarion martensi* (図 7) という珍奇な陸貝を見つけた。軟体部は暗黒色で縦線が走り日本産の *Bekkochlamys* ベッコウマイマイ属とよく似た形態であるが, 巻いた殻をもたずこうら状の殻 (ベッコウ色) を背負っている。その表面は黒褐

色の外套膜でおおわれていることが多い。沖縄の石垣島が北限地で (湊, 1982), 今回新たに台湾での分布が確認された。この属の分布は華南~カンボジア~スマトラ~カリマンタンである。

次に, *Satsuma (Coniglobus) succincta* コヒシマイマイ (図 8) が見つかった。殻は比較的扁平で右巻き体層周縁は角ばる。*Coliglobus* 亜属は台湾ではよく分化した種類である。

Pupinella (Pupinopsis) swinhoei タイワンアズキガイ (図 9) は日本産 *P. (P.) rufa* アズキガイとよく似ているが, 殻口の形態で区別される。この属の貝は, 日本では関東以西, 四国, 九州~奄美諸島の徳ノ島まで分布し, それ以南には分布していない。そして台湾に再び分布する。さらにフィリピン, カリマンタン方面に分布している。なぜか沖縄方面が分布の空白地帯となっている。

Elma swinhoei ハナシタワラガイ (図 9) はあざやかな淡紅色の軟体をもった肉食性の貝である。殻色は乳白色。日本には分布しない。この属の貝は中国, インドシナ, インド方面に分布する。 (以下次号)



図 1 *Eulota tourannensis* タママイマイ (殻高12×殻径14.7mm, 5¼層)。澎湖島 24, Jul.1989

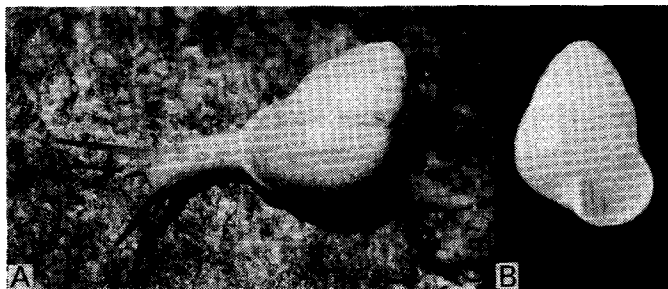


図 2 *Helicostyla (Opallioistyla) okadai* オカダミガキマイマイ (27×20mm, 5層) の生態 (A) と殻 (B)。蘭嶼 29, Jul.1989



図 3 *Pancala batanica boteltobagoensis* コウトウショウマイマイ (14.7×17.5mm, 5¼層)。蘭嶼 29, Jul.1989

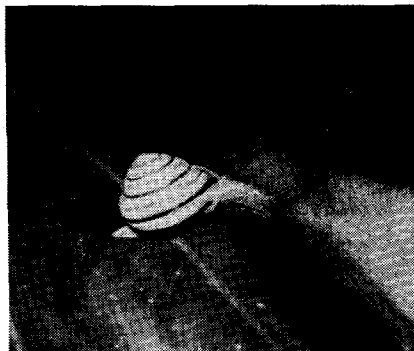


図 4 *Pancala batanica pancala* バンカラマイマイ (20.4×25.7mm, 6¼層)。墾丁 30, Jul.1989

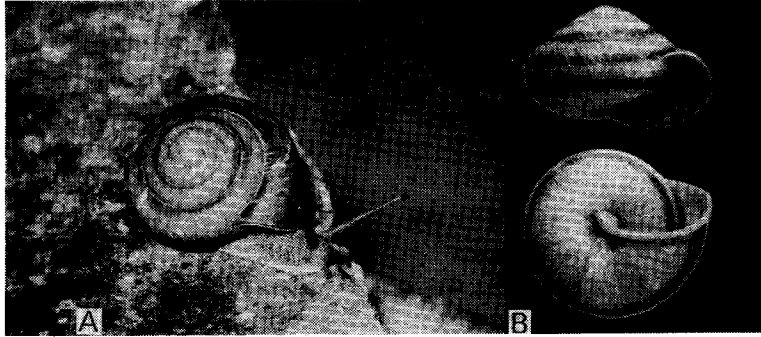


図5 *Nesiohelix kanoi* カノマイマイ (18×27.7mm, 6層) の生態 (A) と殻 (B). 蘭嶼 28, Jul. 1989

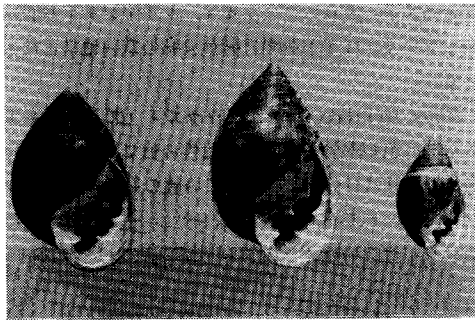


図6 *Pythia pachyodon* クロヒラシノミガイ (左) (28×18.5mm, 10層), *P. pantherina* マダラヒラシノミガイ (中) (30×18.4mm, 10層), *P. nana* ヒメヒラシノミガイ (右) (17.9×9.9mm, 10層). 蘭嶼 28, Jul. 1989

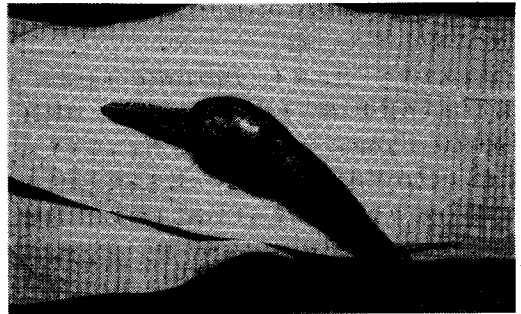


図7 *Parmarion martensi* ヒラコウラベッコウガイ (体長約50mm). 三地門 26, Jul. 1989

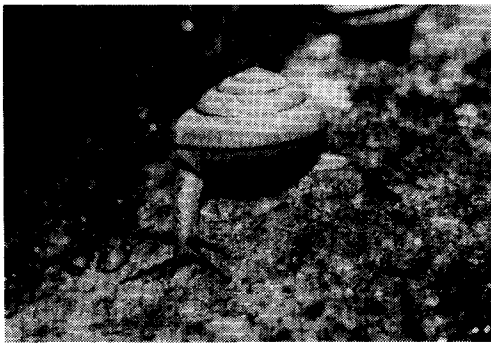


図8 *Satusma (Coniglobus) succineta* コヒシマイマイ (18.2×28.1mm, 6½層). 三地門 26, Jul. 1989



図9 *Elma swinhoei* ハナシタワラガイ (左端) (14.7×5.6mm, 8¾層) と *Pupinella (Pupinopsis) swinhoei* タイワンアズキガイ (11×5.4mm, 6½層). 三地門 26, Jul. 1989